報道関係各位

2012年12月11日

地域社会と連携しながら継続して環境美化に取り組む全国の学校を表彰

「第13回 環境美化教育優良校等表彰事業」小学校、中学校の活動で最優秀校4校ほか決定

【最優秀校】

文部科学大臣賞	広島県	福山市立今津小学校（ふくやましりついまづしょうがっこう）
環境大臣賞	福島県	猪苗代町立翁島小学校（いなわしろちょうりつおきなじましょうがっこう）
農林水産大臣賞	東京都	大田区立大森第六中学校（おおたくりつおおもりだいろくちゅうがっこう）
協会会長賞	熊本県	水俣市立水俣第二中学校（みなまたしりつみなまただいにちゅうがっこう）

清涼飲料・ビールなど飲料業界6団体で構成する、公益社団法人食品容器環境美化協会（略称：食環協、会長：末吉紀雄）では、今年度の「環境美化教育優良校等表彰事業」において、都道府県より推薦を受けた全国の小・中学校の中から最優秀校4校、優秀校6校、優良校31校を選定し、表彰いたします。

この表彰事業は、地域社会と連携しながら環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

最優秀校4校は、都道府県の推薦によって選出された中から審査会による厳正な審査を経て、「文部科学大臣賞」「環境大臣賞」「農林水産大臣賞」「協会会長賞」を決定いたしました。なお、昨年度までは、小学校部門、中学校部門を設置し、部門ごとに受賞校を決定しておりましたが、環境美化活動をより包括的かつ総合的にとらえるため、今年度から部門を区分せず表彰することといたしました。

今年のトピックスは、昨年、東日本大震災により甚大な被害を受け推薦校を選出できなかった福島県の、猪苗代町立翁島小学校（いなわしろちょうりつおきなじましょうがっこう）の環境大臣賞受賞。野口英世の母校でもある同校は、「故郷の象徴、美しい猪苗代湖を取り戻すため一人ひとりが考え行動しよう」という目標意識のもと継続的に取り組んでいることが高く評価され、今回の受賞に至りました。

なお、本年度の表彰式は2013年2月1日（金）、東京スカイツリーが一望できる「浅草ビューホテル」（東京都台東区）にて、最優秀校4校を招いて開催いたします。

◇

公益社団法人食品容器環境美化協会は、1973年に設立されて以来40年の間、飲料容器の散乱防止とリサイクル推進の啓発を中心とした環境美化の推進に努めています。日本の環境が美しくなることを実現するため「環境教育の支援」、「ポイ捨て防止の啓発」、ならびに「アダプト・プログラムの推進」などの事業を展開しています。当協会の「環境美化教育優良校等への表彰」は、「環境美化教育の助長」及び「地域の環境美化の啓発」を目的に2000年度に発足し、今回が13回目となります。

環境教育への取り組みが年々重要になる中で、本年も全国の都道府県から、環境美化教育に独創的かつ熱心に取り組み、校内だけでなく地域とともに環境美化に大きく貢献した活動を実践している優秀な小・中学校が多数推薦されました。これら各校の活動内容を、審査委員が厳正に審査した結果、このたび4校が最優秀校、6校が優秀校、31校が優良校として選定され、表彰の運びとなったものです。

■本年度の各県からの推薦状況

第13回は、環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動を継続している小学校・中学校から都道府県が1校を推薦する方式に変更

	合計
推薦があった都道府県数	41
推　薦　校　数	41

■本年度審査結果

審査委員会による審査の結果、受賞校を以下の通り決定

	受賞校数
最　優　秀　校	4
優　　秀　　校	6
優　　良　　校	31

最優秀校に選ばれた4校の活動概要およびその他各賞の受賞校は以下の通りです。

■最優秀校の活動概要（詳細はＰ７～Ｐ１０参照）：

散乱防止活動またはリサイクル推進活動	
文部科学大臣賞	広島県　福山市立今津小学校（ふくやましりついまづしょうがっこう）
	豊かな自然環境の中で、地域団体や企業、行政と協働で地域の特性を活かした環境学習に取り組んでいる同校。学校の近くを流れる本郷川周辺では、ホタルが飛び舞うように住民と共に美化活動を実施し、校内にホタルビオトープを作り幼虫を飼育観察している。地域にある「ほたるの館」館長からホタルの生態を学んだ児童は、カワニナの帽子や夜露のついたマントを着用した「ホタマン」という環境と平和を守るキャラクターやキャラクターソングを生み出し、地域への愛着を育んでいる。学区開催の行事「ほたるの夕べ」では、学習したことを児童がクイズ形式や紙芝居で情報発信、子どもからお年寄りまで世代を超えた交流を深めている。また、福山クリーンセンター、福山市の環境啓発課や中国電力から、地域に密着したリサイクルの仕組みや3R、エネルギー資源を教わっている。児童は積極的に地区の資源回収分析に活かすなど、協働の支援体制を設けて様々な教科とリンクしながら学習する様子が随所にみられる。
環境大臣賞	福島県　猪苗代町立翁島小学校（いなわしろちょうりつおきなじましょうがっこう）
	かつて湖沼水質ランキングで日本一を誇った猪苗代湖がランク外に転落したのを機に、平成13年度より水環境学習に取り組む。野口英世の母校であることを自負する児童たちは、地域団体「猪苗代湖の自然を守る会」の助言を受けながら、故郷の自然を守るために様々な環境美化活動を展開。水質や水生生物調査を行う一方で、湖岸にポイ捨てされている空き缶や家庭用品を回収したり、水を汚す原因となるヒシやヨシを刈って水質浄化作用のあるアサザを栽培移植したりするなど、地道な取り組みを継続的に実施している。今では10年以上前に先輩たちが移植したアサザの範囲が約4万平方メートルにまで広がる様子も確認でき、着実な成果をあげている。昨年からは、刈ったヒシやヨシを堆肥化して、地域の畑に使用して野菜を栽培する資源循環も実践中。これらの成果は地域の行事等で発表し、住民や他校に情報を発信。“水質日本一を目指すには１人ひとりの小さな努力が大切”ー児童たちの呼びかけが、地域全体に活動の輪を広げている。
農林水産大臣賞	東京都　大田区立大森第六中学校（おおたくりつおおもりだいろくちゅうがっこう）
	景勝地として知られる洗足池が隣接する同校。周辺が風致地区に指定されていることもあり、恵まれた自然環境を守るために生徒は地域の美化活動を自主的に行っている。洗足池にホタルを復活させることを目標に、池の水質や土壌調査を実施しながら校内でホタルを飼育し、授業開始前の朝20分間、約120名が率先して洗足池周辺の清掃活動に取り組む。その過程で、落ち葉掃きでたまった落ち葉はミミズコンポストで腐葉土にしたり、池の水質を浄化する試みの一つとして空芯菜を池で栽培したりと、新しい企画が次々と誕生している。「農援隊」と名付けられたこの活動は地域にも広がり、地元商店街や区役所と協働で学区内の大岡山駅前に芝桜を植樹した。生徒が育てて洗足池に放流したホタルは、毎年飛翔数が増え、住民から感謝の声が届いている。地域のために行った活動が生徒の自信につながって、学校全体が明るくなり、生徒の学力も大幅に向上している。
協会会長賞	熊本県　水俣市立水俣第二中学校（みなまたしりつみなまただいにちゅうがっこう）
	水俣病という重い公害の歴史を乗り越えた現在、日本の環境首都を標榜する水俣市では、環境教育が盛んに行われている。中でも「環境二中」として知られる同校では、地域や保護者と協力しながら特色のある活動が展開される。生徒会が先導役となって生徒のほぼ全員が放課後に実施する「地域不用品分別収集活動」は、住民とともに不用品を24種類に徹底分別。難儀しているお年寄りのゴミ出しを率先して手伝う生徒も普通に見受けられるなど、地域との交流を深めようとする意識も高く、この取り組みは「水俣二中モデル」として他校にも活動の輪が広がっている。市の不用品分別収集活動の方針は、校内の学校版環境ISOにも取り入れ、節水・節電・校内美化など5つの行動項目で示されている。また、「校内環境検定」という生徒が発案した独自の試験制度も設置し、環境リーダーを育成しながら環境美化を広めようという意識が着実に芽生えている。

■その他受賞校：

＜優秀校＞　　協会会長賞　6 校

青森県	平川市立葛川小学校・中学校	山形県	尾花沢市立尾花沢小学校
新潟県	新潟市立女池小学校	石川県	能美市立根上中学校
愛媛県	宇和島市立成妙小学校	宮崎県	宮崎市立宮崎小学校

＜優良校＞　　協会会長賞　31 校

岩手県	軽米町立小軽米小学校	滋賀県	日野町立南比都佐小学校
秋田県	横手市立山内小学校	京都府	舞鶴市立青葉中学校
茨城県	守谷市立愛宕中学校	大阪府	大阪府立堺支援学校
栃木県	日光市立安良沢小学校	兵庫県	篠山市立畑小学校
群馬県	沼田市立多那中学校	奈良県	曽爾村立曽爾小学校
埼玉県	さいたま市立春野小学校	和歌山県	田辺市立龍神中学校
千葉県	芝山町立東小学校	島根県	開星中学・高等学校
神奈川県	小田原市立鴨宮中学校	岡山県	総社市立昭和中学校
山梨県	昭和町立押原中学校	山口県	山陽小野田市立津布田小学校
長野県	長野市立広徳中学校	徳島県	徳島市津田小学校
富山県	魚津市立経田小学校	福岡県	添田町立落合小学校
福井県	坂井市立三国南小学校	佐賀県	佐賀市立北山中学校・小学校
岐阜県	垂井町立不破中学校	長崎県	諫早市立高来西小学校
静岡県	沼津市立開北小学校	大分県	豊後高田市立都甲小学校
愛知県	岩倉市立岩倉東小学校	鹿児島県	鹿児島市立伊敷中学校
		沖縄県	那覇市立石嶺中学校

■表彰授与

●最優秀校 4 校の表彰式は、下記にて行います。

2013 年 2 月 1 日（金）16:00～17:30（受付　15：00～）

浅草ビューホテル　4 階「飛翔の間」

東京都台東区西浅草 3-17-1　電話 03-3847-1111

http://www.viewhotels.co.jp/asakusa/　＊つくばエクスプレス「浅草駅」直結

懇談会　17:30～19:00（予定）25 階「大輪の間」

●優秀校ならびに優良校については、後日、各県において表彰状等を伝達します。

環境美化教育優良校等表彰事業の概要

■主　　催：公益社団法人食品容器環境美化協会

■後　　援：文部科学省、環境省、農林水産省

■表彰の対象：環境美化教育に独創的、継続的、かつ熱心に取組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小中学校、およびこれに準ずる小中学生の団体

■表　　彰：

最優秀校	文部科学大臣賞	1校
最優秀校	環境大臣賞	1校
最優秀校	農林水産大臣賞	1校
最優秀校	食環協会長賞	1校

・賞状と副賞を贈呈

・上記の他、「優秀校」、「優良校」に対し、食環協会長賞と副賞を贈呈

■応募・推薦・審査：

【最優秀校・優秀校・優良校】

都道府県の環境整備主管部局、または教育主管部局が推薦する小中学校を審査委員会で審査し、表彰する

■審査委員：

［審査委員長］　小澤　紀美子　　東海大学教授

［審査委員］

木野　正則　　公益財団法人　日本容器包装リサイクル協会
業務執行理事・企画広報部長

柏木　順二　　財団法人　日本環境協会　専務理事

小島　あずさ　　一般社団法人　JEAN　事務局長・副代表

高橋　康夫　　東京都教職員研修センター　教授

石川　保久　　公益社団法人食品容器環境美化協会　企画委員
サントリーホールディングス株式会社エコ戦略部専任部長

（敬称略）

公益社団法人食品容器環境美化協会の概要

1973 年（昭和 48 年）　任意団体「食品容器環境美化協議会」として発足

1982 年（昭和 57 年）　社団法人「食品容器環境美化協会」（農林水産大臣設立認可）

設立以来 40 年間、飲料容器の散乱防止など、国土の環境美化の推進に努め、公共の福祉の増進に資するため、各種啓発活動を行っている公益法人です。

2012 年（平成 23 年）　公益社団法人「食品容器環境美化協会」（内閣府認可）

公益法人制度の改革に伴い、内閣総理大臣から公益社団法人の認定を受け、

「公益社団法人食品容器環境美化協会」として再発足しました。

主な活動　：　〇新しいまち美化手法「アダプト・プログラム」の普及と推進活動

〇小中学校でのパソコン学習支援サイト「まち美化キッズ」の運営、教育者向け「環境美化　学習のガイド」の制作提供等の次世代への環境教育支援　http://www.kankyobika.or.jp/kids/index.html

〇市民団体等への環境美化活動の支援

〇「ポイ捨て防止」啓発活動

〇散乱ごみ対策の調査・研究　等

構成団体　：一般社団法人　全国清涼飲料工業会　http://j-sda.or.jp/

清涼飲料メーカーなど 51 会員 101 社、組合会員 32 会員 265 社、賛助会員 105 社からなる社団法人

一般社団法人　全国トマト工業会　http://www.japan-tomato.or.jp/

トマト加工製品メーカーなど 36 社からなる公益法人

社団法人　日本果汁協会　http://www.kaju-kyo.ecnet.jp/

果実飲料メーカーなど 133 会員からなる公益法人

日本コーヒー飲料協会

コーヒー飲料メーカーなど 21 社からなる任意団体

コカ・コーラ協会

日本コカ・コーラ社、全国のコカ・コーラボトラーズ 12 社からなる任意団体

ビール酒造組合　http://www.brewers.or.jp/

アサヒ、キリン、サッポロ、サントリー、オリオン（沖縄）のビール 5 社による特別認可法人

■本件に関するお問い合わせ先■

公益社団法人食品容器環境美化協会（食環協）

〒108-0023　東京都港区芝浦 2-15-16　田町 K.S ビル 6 階

TEL.　03-5439-5121　FAX.　03-5476-2883

ホームページ　http://www.kankyobika.or.jp/